

新型コロナ 学生生活に工夫

医療系学生にアンケート調査

日本薬学生連盟

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、現在も収束の気配がなく、私たちの学生生活が感染の流行以前とは大きく変化してから約1年が過ぎようとしています。これを受けて日本薬学生連盟は、学生生活を前向きに送るための工夫に関する意識調査を実施しました。アンケートはGoogleフォームを活用し、日本全国の薬学生をはじめとする医療系学生75人から回答を得ました（2021年度広報統括理事 日本薬科大学5年生 山沢智）

そのほかにも、オンラインでのイベント参加やサークル活動、ゲームの対戦、勉強会などをして交流していたそうです。この1年でオンラインでのつながりはとても充実したことがうかがえました。

一方で、「ほとんど交流がなかった」や「実習や試験、研究など数少ない登校日で話す程度だった」という回答も一定数存在し、友人との関係が希薄になってしまったことも多く見受けられました。

「コロナ禍では、どのように友人と交流をしましたか？」という質問には、最も多い回答として「LINEやZOOMを利用したビデオ通話（ZOOM飲み会を含む）」が挙げられました（図2）。

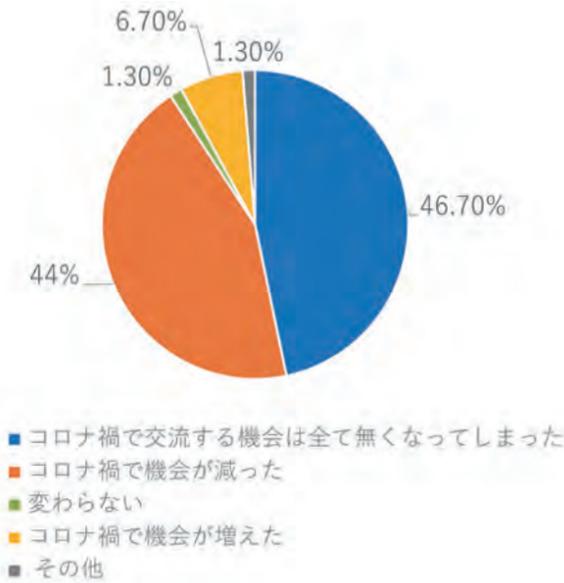
多様になった学習形式

試験日程「教授間で調整を」

学生間の交流機会激減

オンラインの活用増加

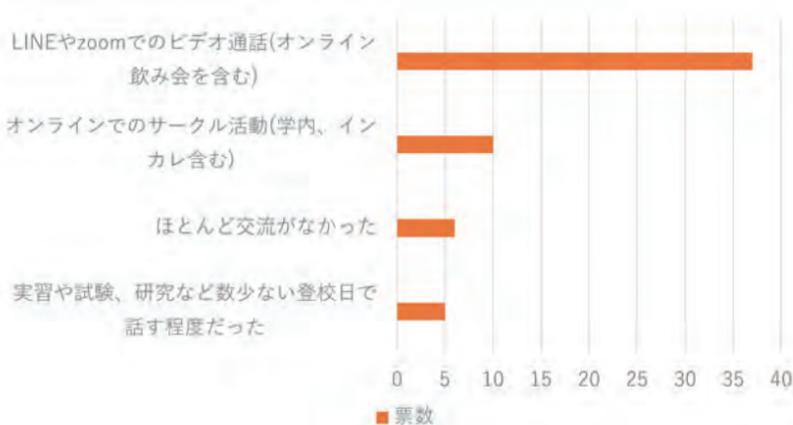
図1 サークル活動や学生同士で交流する機会が大学で設けられていましたか？（新歓や学園祭等）



まず、「サークル活動や学生同士で交流する機会（新歓や学園祭等）が大学で設けられていましたか？」と質問したところ、「コロナ禍で機会が減った」（44%）もしくは「コロナ禍で交流する機会は全てなくなってしまった」（46.7%）との回答が多く、両者を合わせると90.7%となり、全国的に学生の交流機会が激減したことが分かりました（図1）

このような状況で

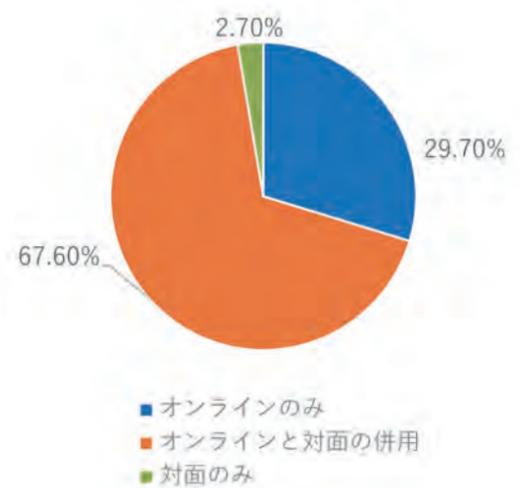
図2 コロナ禍では、どのように友人と交流をしましたか？



次に、学習面について昨年度の状況を調査しました。「昨年、大学の授業はどのような形式でしたか？」という質問には、「オンラインのみ」（29.7%）と「オンラインと対面の併用」（67.6%）を合わせると、97.3%の学生がオンライン形式の授業を経験していたことが分かりました（図3）

授業で大変だったことを挙げてもらおうと、質問をするのが難しいことや情報を得るのが困難なこと、自宅での学習のモチベーション維持ができないことなどがありました。そんな中でも、

図3 昨年、大学の授業はどのような形式でしたか？

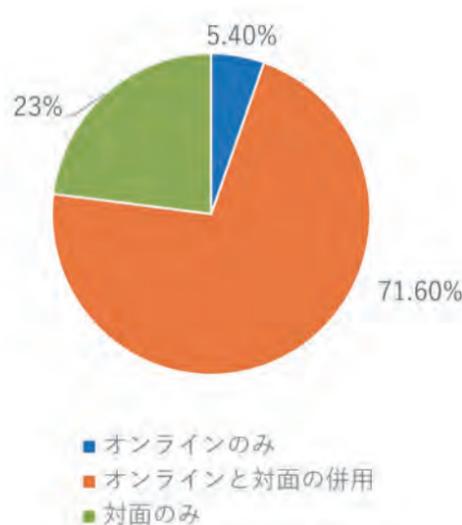


録画型授業を繰り返し観たり、授業毎に要点をまとめたり、授業より早く先取り学習をしたりするなどの対策を講じていたとのことでした。

また、実習についても形式を問うと、「オンラインのみ」は5.4%、「オンラインと対面の併用」は71.6%であり、実習でもオンライン形式の導入が多かったことが分かりました（図4）。一方で、「対面のみ」は23.0%であり、授業とは違い実習だけは対面で行っていた大学もあったことが分かりました。

大変だったこととしては、「オ

図4 昨年、大学の实習はどのような形式でしたか？



メディキャリアNaviは

薬系就活のリーディングカンパニーを目指します！！

メディキャリアNavi
X
Medisere SCHOOL

オフナー型就活を追加！！

特徴①

Web実力テストで
**実力把握と
成績PR**

《《《 詳細/無料登録はこちら

特徴②

専任アドバイザーが
**自己分析と
エントリーシート
の作成を
サポート**

特徴③

あなたに合う企業から
オファーが届く！！

お問合先：メディキャリア本部 TEL：06-6371-6123

